

持ち歩きながら使える方向探知受信機で車載運用も可能な形状

専用の方探アンテナと組み合わせると電波の到来方向と受信信号強度を表示。

発信器捜索(遭難救助・徘徊管理・脱走ペット動物等捜索)に便利。

## 1. 仕様

方位表示 : 分解能45度(8分割)、  
 表示所要時間 : 約50mS/100Hz・・・専用方探アンテナと組み合わせ  
 ロットアンテナやホイップアンテナ使用時は電界強度表示のみ有効  
 受信周波数 : 80~650MHz, 862~950MHzで御指定の周波数  
 (特定の条件では受信表示できない場合があります)  
 受信感度 : 約-120dBm~-70dBmと-80dBm~-30dBmの切替  
 受信信号音 : CW/SSB復調出力  
 電源電圧 : 単三乾電池4個、外部電源 : 9~12V(DC)  
 消費電流 : 約70mA (単三アルカリ電池で連続約10時間使用可)  
 外形寸法 : 140×77×27mm  
 本体重量 : 約200g(電池実装時約300g)  
 使用環境温度 : -20~+60℃

## オプション機能

多チャンネル仕様 : コントローラ(DF1-CNT1)を接続すると5チャンネルか31チャンネル切り替え可能。

受信帯域幅 : コントローラ(DF1-CNT1)を接続して、チャンネルスイッチを押しながら電源を入れると、受信帯域幅が9kHzに切替できる(通常受信帯域幅は18kHz)

## 2. 付属品

ロットアンテナ-1個、イヤホン-1個、ACアダプタ(12V)-1個、外部電源接続用コード-1個、単三乾電池-4個

## 3. 使用方法

- (1)背面の電池フタを下側へずらして開き、単三乾電池を4個装着。  
ACアダプタ(12V)を接続すると連続運用でき、その時、充電電池を装着してあると充電します。
- (2)背面のスイッチ-1をONで電源が入る。  
信号を受信すると信号強度表示LEDが点灯します。
- (3)上面のプッシュスイッチを押すと信号強度LEDがチャンネル表示に変わり、押し続けるとチャンネルが順次繰り上がる。
- (4)背面のスイッチ-2をONにすると、信号の変化、チャンネル表示等の時に電子音を出力。
- (5)背面のスイッチ-3は、受信信号の音量が変わる。
- (6)背面のスイッチ-4は感度切替で、ONにすると高感度(遠距離用)、OFFにすると低感度(近距離用)。
- (7)上面のBNCコネクタへアンテナを接続、電源投入時にアンテナ端子が無接続かロットアンテナの場合は方向表示しません。  
専用方探アンテナを後で接続した時は、電源を入れ直すと方向表示します。
- (8)専用方探アンテナの矢印方向が、受信機の方向表示で上側を表示するように出荷調整してあります。  
使用環境によっては実際の電波到来方向とずれる場合がありますので、所在が分かっている発信器で確認して方位のずれを受信機の配置角度で補正して使用して下さい。  
手持ちで使用する時は、アンテナを持つ角度や高さで表示方向が変わることがあります。  
ご自身の体から出来るだけ離して高く掲げると比較的表示誤差が少なく、感度良く使えます。  
室内では壁による反射等で方向表示が乱れることが多いので、広い屋外で確認して下さい。
- (9)受信信号が約14dB強くなると、信号強度表示の点灯するLEDが1つ増える。  
障害物が無い地上では、距離が約半分近づくとLEDの点灯が1つ増えます。
- (10)専用方探アンテナを接続すると、1秒間に約100回の頻度で受信信号の到来方向を表示し続けます。
- (11)赤LED点灯の強い信号は方向表示が異常になることがあります、その時は感度を下げて下さい。
- (12)受信信号が無くなるか急激に弱くなると、その直前の方向と信号強度をロックして約1秒間表示します。



この機能により、短時間の送信信号を受信した時の状態が見やすくなっています。  
特定の場所や信号の強さが大きく変化する場合は、この機能で頻繁に表示ロックすることがありますが故障ではありません、場所を変えて受信してみてください。

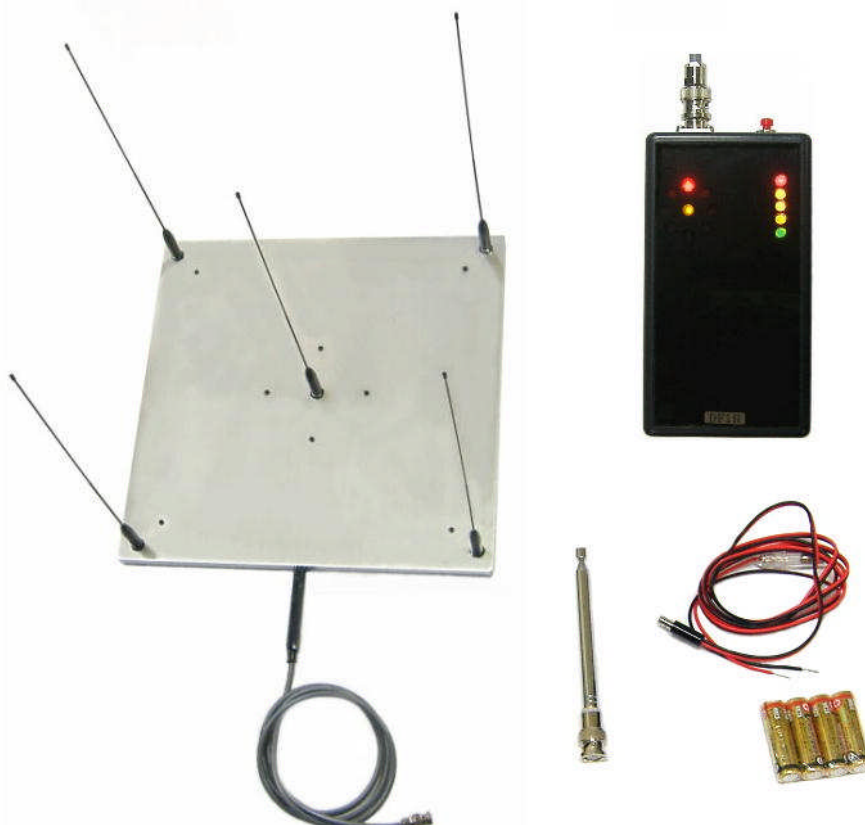
#### 4. 多チャンネル仕様…オプション

- (1)コントローラ(DF1-CNT1)を接続すると音声出力が内蔵スピーカからコントローラのイヤホン端子へ切り替わる。  
イヤホンをコントローラへ接続して操作して下さい。電源を入れると、まず1CHを受信します。
- (2)コントローラのスイッチを短時間(0.5秒以内)押しと信号強度LEDが約1秒間チャンネル表示へ変わる。
- (3)1CHを受信中は1番下の緑LEDが点灯、2CHは2番目のLEDだけ点灯～5CHは1番上の赤LEDだけ点灯。
- (4)コントローラのスイッチを押し続けると約1秒毎に1つずつチャンネルが繰り上がる。(チャンネル操作中は電子音が鳴動)
- (5)目的のチャンネルでスイッチOFFにすると、その後1秒以内に通常受信動作へ戻る。
- (6)31チャンネル仕様では5個のLEDで2進数の00001～11111で表示、その他は5チャンネル仕様と同じ動作。
- (7)チャンネルスイッチを押した状態で電源を入れると、受信帯域幅を狭くできる。  
チャンネルスイッチONのまま電源が入ると受信帯域幅8kHz、チャンネルスイッチOFFで電源が入ると帯域幅19kHz。  
コントローラ(DF1-CNT1)を接続してチャンネルスイッチを押しながら電源を入れると受信帯域幅が9kHzに狭くなる。
- (8)チャンネル設定後に受信機へ直接イヤホンを差込むと一瞬チャンネル表示に変わり引き続きそのチャンネルで受信する。  
イヤホンを根元まで差し込まずに途中で止めるとチャンネルスイッチONと同じ状態になり、チャンネル変更される。  
このイヤホンプラグ操作に慣ればコントローラ無しにチャンネル切替設定を行えます。

#### 5. 使用上の注意

- (1)近くで強い電波を送信すると受信機および方向探知装置が故障する可能性があります。  
トランシーバ等を送信するときは少し離れて下さい(距離限界の目安は送信1Wで約0.5m、送信10Wで約1m)
- (2)充電電池は2000mAh程度のNiH型単三充電電池が適します。(充電電池は別売で本体に付属しません)  
充電は約50mA程度の小さい電流です、使用する時間の約1.5倍の時間ACアダプタを接続して下さい。  
満充電になると充電電流は漏れ電流を補充する程度の約20mAに低下します。  
使い切った充電電池を充電すると初めは150mA程度の充電電流になり、更に受信中は合計約220mA。  
外部電源を使用する時は、電流容量が300mA以上の電源を使用して下さい。  
電池が劣化して充電電流が大きいと受信機が高温になり危険です！その時は電池を交換して下さい。
- (3)充電できない乾電池を装着してある時はACアダプタを接続しないで下さい。
- (4)イヤホンは付属の専用イヤホンを使って下さい…ステレオ用イヤホンの片方を切断したものです。

方向探知装置  
組合せの例→



## 品質保証書

ご使用中に故障した場合は製品に本書を添えてお買上げ店か(株)西無線研究所へ修理をご依頼下さい。

- 1 保証期間はお買上げ後1年間です。日本国内で使用される場合のみ適用されます。
- 2 保証期間中でも次の場合は有料になります。
  - (イ)使用上の誤りまたは不当な修理や改造による故障・損傷
  - (ロ)お買上げに強い衝撃や圧力などを加えたことによる損傷・故障
  - (ハ)火災・地震・風水害・その他天災地変や異常電圧などによる故障・損傷
  - (ニ)本書を提示されない場合
  - (ホ)本書に購入日・販売元名・お客様名の名前の記入が無い場合
- 3 本書は再発行しませんので大切に保管して下さい。

型名・機番 ご購入日	DF1R-142MFMN-5CH 2011年 12月 日	No, 110012
お名前		
ご住所		
T E L		
販売元	(株)西無線研究所 三宮事務所	

### (株)西無線研究所

〒651-0096 神戸市中央区雲井通2-1-29-205 TEL078-251-8721, FAX078-251-8722  
MAIL:nishi@nishimusen.co.jp <http://www.nishimusen.co.jp/>

MEMO